

# 発刊の辞

知内町長 大野幸孝

1986（昭和61）年6月に発刊した『知内町史』から30年近くの年月が経過し、この間、わが国経済は安定成長期からバブル経済期、そしてバブル経済の崩壊とともに経済が縮小する時代、いわゆる失われた20年と呼ばれる低成長期に突入した激動の時代でありました。

本町では、この間大野重樹町長から脇本哲也町長そして大野幸孝町長へと町政が引き継がれ、1987（昭和62）年には第3次、1996（平成8）年には第4次、2006（平成18）年には第5次の知内町総合計画を策定しました。

特に、第4次総合計画ではまちづくりのイメージテーマを『笑顔かがやく躍動の舞台（まち）』に設定し、町民が健康・快適で将来を安心して暮らすことのできる「定住」と町民相互あるいは来訪者とのふれあい豊かな「交流」を二つの柱に新たなまちづくりを進めてきたところであります。

この間、本町の基幹産業である農業は、ニラ・ほうれん草・トマトなどの施設園芸作物が飛躍的に生産を増やし、漁業では、カキ・ホタテなどの養殖漁業が定着し、産品としてのブランド化が図られました。

また、町民が安心・安全そして快適に生活するため、防災計画の見直しや避難所への災害用備蓄品の配置、上水道の拡張や下水道の整備、養護老人ホームの開設や保健医療総合センターの整備も行われました。

さらに、学童保育の開設や子ども医療費助成などの各種助成事業の拡充による子育て支援、町の次代を担う子どもたちのスポーツ・文化面での活躍も目覚しく、特に知内高校の町立高校で初の甲子園出場は、町民に大きな夢を与えてくれました。

このような一つひとつの出来事が、町に住んでいる人々の生活であり、町の姿であり、本町の歴史であります。これらのことを正確に記録し、その足跡を後世にしっかりと伝えるため、新しい町史を発刊することと致しました。

本町史は、これまでの町史とは異なった視点で、「知内町の概要」、「前町史以降の町の様子」、「写真と年表での町の歩み」の全3分冊で発刊することとしました。

先に上梓しました「知内町史」とあわせて、本町史が町民の皆様方にご愛読いただくとともに広く活用していただければ、発刊の目的を果たすことができるものと考えます。

発刊にあたり、資料収集にご尽力いただきました町史編纂委員各位と資料提供及び調査協力いただきました多くの町民皆様に心からお礼を申し上げます。

本町史が、町民皆様にとりまして、未来につなぐ架け橋となって、ふるさと知内町が更なる発展するための貴重な礎となることを願って発刊の挨拶と致します。